

秋田の風

日銀秋田支店長コラム

来年春に向けた就職活動が本格化している。企業は、人手不足の中、いずれ自社の将来を託すことになる人材を探そうと必死だ。就活生も、目先の初任給を気にしつつ、それだけではなく成長力が感じられ、先行きの質上げや自身の成長も期待できそうな企業を選ぼうと真剣だ。そうした場面でも重要になるのが第一印象である。筆者がここで表現したい第一印象は、単なる外見ではない。就活生の視点で見た場合、面接官やすれ違う社員、社屋の様子などからうかがわれる、職場が明るく働いたら楽しそうか、若手が大切にされそうか、などの直感的な印象である。

秋田の第一印象

では、県外の人からみた秋田の第一印象は、どうだろうか。筆者周辺の限られたサンプルだが、この2年の間に同僚の支店長を含め数十人の知人が秋田を訪ねてきた。意外に思うかもしれないが、彼ら彼女らのほとんどが、新幹線や空港リムジンバスから秋田駅に降りた時、少々驚いている。

停車駅至近に城跡があるところは珍しく、そうした歴史を感じさせる部分と、あきた芸術劇場ミルハスやエリアなかいちなど、のモダンな部分とが徒歩圏内にある。コンパクトでも、まちなかが気持ちよく整備され、住民がその空間を大切にしている印象も受ける。

「居心地が良く歩きなくなる」予定されている。寄港時には、市内を散策する海外・県外の観光客を多く見かける。就職活動と同様、第一印象が良ければ中身をもっと知りたくなるものだ。県の顔である県庁所在地に好印象を受ければ、次は県内の観光地や、季節ごとに各地で行われる祭りやイベントを訪ねてみたいものなるだろう。逆に印象

居心地良いまちなかに

おそらく、人口30万人ほどの地方都市と聞いて想像してきた街の姿とは、違った印象を受けるのだろう。そもそも新幹線の

まちなかづくりは、人口減少や少子高齢化が進み、活力の低下が懸念される地域の魅力を向上させるための、キーワードの一つとされる。秋田市の中心市街地は、そうしたまちなかづくりが少しずつ進められており、訪れた人が受ける印象にも影響を及ぼし始めている。

今年、秋田港には過去最多となる36回のクルーズ船の寄港が

取り組みはまだ途上にあり、外の知見を活用するなど今後の工夫次第で、まちなかの活性化や魅力向上がさらに進みそうなエリアや歴史的建物も残る。訪れた人の好印象につながり始めた流れが、新知事・新市長の下、どう進展するか楽しみだ。

「居心地が良く歩きなくなる」

が悪ければ、リピーターになる可能性は大きく下がる。

中心市街地の活性化は、行政、秋田商工会議所などの関係機関、住民が、方向感を共有・協力しながら、時間と労力をかけて取り組んできたものだ。中でもミルハスは、県と市が協力して整備した評価の高い施設であり、前知事・前市長時代の大きな成果の一つと言える。



（片桐大地・日本銀行秋田支店長）
〈随時掲載〉